

(様式1-2) 情報発信等戦略 000 福島県

情報発信等戦略の期間	
令和3年度～令和7年度まで ※ 令和7年度までのうち、対象市町村等が設定	
情報発信等戦略	
(1) 情報発信の内容	
国内外の方々に福島県の正しい姿や多様な魅力を知っていただくため、県外の大消費地や海外に向けた積極的な情報発信やアメリカを始めとした輸出の拡大など、各部署が一丸となり、工夫を重ねながら、戦略的な情報発信に取り組む。	
(2) 福島県の情報発信体制	
A-1 国内外の発信拠点におけるふくしまの魅力・情報発信事業	
A	風評・風化戦略室 地域振興課 ふくしまの魅力・情報発信連携事業 東京ガールズコレクション(TGC)を運営する(株)W TOKYOとの連携
B	地域振興課 リカちゃんとのコラボ
B	県産品振興戦略課 米国に向けた県産品トップセールス事業
A-2 ふくしまの魅力・情報デジタル発信等強化事業	
A	広報課 ふくしま戦略的デジタル発信推進事業
B	水田畑作課 ふくしま米生産情報発信事業
C	農業担い手課 被災地農業再生促進事業
D	園芸課 ふくしま園芸農業の魅力発信事業
E	水産課 ふくしまの漁業の魅力体感・発信事業
F	復興・総合計画課 戦略的復興関連情報発信事業
A-3 相双地域の魅力・情報発信事業	
A	相双地方振興局 相双地域の魅力戦略的情報発信事業
B	エネルギー課 Jヴィレッジから広める福島安全安心PR事業
C	生涯学習課 被災地域の復興のあゆみ・魅力発信事業
D	避難地域復興課 復興フットパスを通じた福島12市町村の魅力発信事業
E	観光交流課 ホープツーリズム・運営・基礎整備事業
A-4 外部人材等の活用によるふくしまの魅力・情報発信事業	
A	国際課 外国要人等を通じた風評払拭・魅力発信事業
B	観光交流課 ふくしま浜通りブルー・ツーリズム推進事業
C	観光交流課 海外風評払拭情報発信事業
A-5 ふくしまの語り部人材育成強化事業	
A	生涯学習課 次世代へつなぐ震災伝承事業
B	高校教育課 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業
(3) 情報発信等の戦略目標	
各分野ごとの主な目標	
A-1 国内外の発信拠点におけるふくしまの魅力・情報発信事業	
○ 外部機関等との連携や東京駅前の新たな交流スポットの積極的活用により、ふくしまの安全・安心とその魅力等を切れ目なく複合的に発信する。	
○ 輸入規制が撤廃された米国において、日本酒、米を中心としたイベントの開催等積極的なプロモーションを実施する。	
A-2 ふくしまの魅力・情報デジタル発信等強化事業	

- 福島県の農業、園芸農業の安全・安心や魅力をPRするための動画等の作成、各種メディアを活用した県外への漁業の魅力の発信等を行い、専門家によるアドバイス等により情報発信の改善を図る。
- 復興や風評対策等に係る情報を多言語化し、海外に向けて、見やすく、分かりやすい発信をするためのポータルサイトを新たに構築する。

A-3 相双地域の魅力・情報発信事業

- 相双地域魅力発信ポータルサイト・SNSコンテンツ構築や「福島復興のシンボル」Jヴィレッジを拠点とした情報発信、復興フットパスを切り口とした魅力の発信等を行う。
- 一般観光客向けのホープツーリズムに関するデジタルを活用した切れ目ない情報発信を行う。

A-4 外部人材等の活用によるふくしまの魅力・情報発信事業

- 駐日大使、メディア等の県内視察・招へいによる本県の復興状況や魅力の発信、本県PR資材提供による情報発信を行う。
- ブルー・ツーリズムに関するコンテンツ磨き上げやインフルエンサーやメディアを活用した情報発信、地域人材を活用したアテンド・ファンづくり、対象市場における観光情報サイト等へのコンテンツ掲載支援等を行う。

A-5 ふくしまの語り部人材育成強化事業

- 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議、交流会、伝承者育成、県外等への語り部派遣等を行う。
- 高校生による語り部活動及び生徒、教員に対する伝承館等を活用した語り部人材育成等を行う。

(4) 全体工程表

別紙のとおり

※ 令和5年1月13日時点の計画であり、令和6年度以降の計画については、事業の進捗等に応じて変更する場合がある。

<p>C 被災地域の復興のあゆみ・魅力発信事業</p>	<p>SNS等による発信及び効果分析（国内外向け）</p> <p>福島復興の現状を知ってもらうためのモニターツアー（旅行者・教員向け）</p> <p>業界誌・専門誌等への広告掲載、新聞及びテレビ番組による事業内容周知、パンフレット作成</p> <p>風評の払拭に資するイベント</p> <p>復興のあゆみを発信するイベント</p>	<p>相双地域は、JR常磐線全線運転再開、東北中央自動車（相馬～福島）全線開通等インフラの復旧・整備が進んでいるものの、観光客入込数は震災前の約65%しか回復していないなど、依然として根強い風評が残っている状況にある。</p> <p>引き続き、相双地域の自治体の魅力等を様々な手法で県外に発信する取組や福島復興のシンボル「Jヴィレッジ」、原子力災害の教訓や復興状況等を発信する施設等におけるイベント等を事業の結果等を踏まえ工夫しながら実施し、より多くの人々に被災地域の魅力と正確な情報を知っていただくことが重要である。</p>
<p>D 復興フットパスを通じた福島12市町村の魅力発信事業</p>	<p>「復興フットパス等」の調査・情報発信（フットパスコースの作成、情報発信及び制作物等、イベントの開催）</p>	
<p>E ホープツーリズム・運営・基礎整備事業</p>	<p>「個人向けホープツーリズム」に関する情報の発信</p>	
<p>A-4 外部人材等の活用によるふくしまの魅力・情報発信事業</p>		
<p>A 外国要人等を通じた風評払拭・魅力発信事業</p>	<p>駐日大使等による福島県視察・メディア、インフルエンサーによる取材、在外公館等への資料提供による情報発信</p>	
<p>B ふくしま浜通りブルー・ツーリズム推進事業</p>	<p>観光客受入体制強化、プロモーション等</p>	
<p>C 海外風評払拭情報発信事業</p>	<p>ファムツアー（旅行会社・ランドオペレータ等）、ファムツアー（インフルエンサー）</p> <p>ターゲットコミュニティへの情報発信、観光情報サイトの情報整備</p>	<p>根強い風評被害等により観光客入込数が震災前の水準に回復しておらず、また、本県の県産品に対する輸入規制が続く国・地域もあることから、情報発信や被災地域の観光コンテンツである「ふくしま浜通りブルー・ツーリズム」の定着等の取組を継続する必要があるが、独自の定性定量調査や「風評・風化対策に関する情報発信分析事業」の結果等を踏まえ、工夫しながら、より効果的に本県の安全・安心に関する正確な情報や地域の魅力等の発信する必要がある。</p>
<p>A-5 ふくしまの語り部人材育成強化事業</p>		
<p>A 次世代へつなぐ震災伝承事業</p>	<p>ネットワーク化・レベルアップ、人材育成、県外語り部派遣</p>	
<p>B 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業</p>	<p>震災関連学習・語り部活動の人材育成、県外・海外の学校等との交流（語り部活動の実施）、リーフレット（小冊子）の配布、伝承館を利用した教員研修（教員）</p>	<p>語り部団体の活動を支援する事業は、令和4年度に基盤整備、令和5年度には活動開始までを実施することとしており、令和6年度には、各団体等が自立して活動するための環境整備を実施して終了する予定である。</p> <p>語り部育成事業については、最近、風評払拭のための若年層に対する理解促進のための事業等において、県外高校生と福島県内の高校生との交流の機会が設定されるなど、ニーズはある一方で、語り部として育成した高校生は卒業によって入れ替わってしまうことから、ニーズに応じた育成プログラムとなるよう工夫しつつ、継続して実施する。</p>